

各 位

2022年7月5日
株式会社インプレス

これからのビジネスや経営に欠かせない“ESG”のすべてがわかり、実践できる『ESGが生み出す選ばれるビジネス（できるビジネス）』を2022年7月5日（火）に発売

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小川 亨）は、ESG経営に取り組むためのノウハウを凝縮した書籍『ESGが生み出す選ばれるビジネス（できるビジネス）』を2022年7月5日（火）に発売いたします。



■ESGの入門から実践まで、今日から活用できる決定版

ESGとは「Environment」（環境）、「Social」（社会）、「Governance」（企業統治）のことです。これら3つの軸で企業を評価し投資することを「ESG投資」と呼び、日本では2017年に年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資を開始したことで、主に投資家の注目を集めてきました。言い換えれば、ESGに取り組むことがこれからの企業には求められるのです。自社や株主の利益だけを追求するのではなく、社会や環境の利益となるような事業を行う——その結果、企業価値が上がり、SDGsの達成にもつながるのがESGを軸にした経営です。昨今はSDGsに後押しされるような形でESGに取り組む企業も増えており、そのことが「投資家」「顧客」「就活生」などから選ばれ、持続する企業になれる条件といっても過言ではありません。本書は、ステークホルダーから「選ばれるビジネス」を行うためのESGの入門&実践書です。具体的な事例を紹介しながら、本書オリジナルのフレームワークやワークシートで読者自ら

ESG の推進度を自己評価できる仕組みになっています。ESG ってなに？という人から、実際どう取り組み方がいいの？という人まで、多くの場面で本当に役に立つ ESG のバイブルです。

<本書の特徴>

- ・わかりやすい平易で丁寧な解説

専門用語には解説がついているため、ESG に関する前提知識がゼロの状態から読み始められます。図解が豊富なので、視覚的に理解しやすいのも特徴です。

- ・ ESG の実践につながる仕組みがたくさん

本書独自の ESG 思考ワークシートや ESG アクションチェック、自己診断シートなどを活用することで、自社の ESG 推進度や課題を可視化できます。

- ・ 先進的な取り組みがわかる豊富な事例紹介

ESG 経営を実践している事例を数多く紹介しています。E・S・G それぞれの具体的な取り組みやつながりを把握できるように図解しているので、自社で実践する際のヒントが得られます。

**これまでの企業の在り方を
ふりかえる**

■ 置き去りにされた「E」と「S」

産業革命以降の豊かな資本主義経済を支えてきたこれまでの企業のすべてが、環境や社会に対する影響をまったく無視していたというわけではありません。しかし少なくとも大多数の企業が、そうしたことを二次の課題としてきた、とはいえそうです。

最優先すべきは人間社会の豊かさであり、そのために自然資源を開発したり、化石燃料をエネルギー源として大量の二酸化炭素を排出しながら工場を操業したり、あるいは調達コストを抑えてなるべく安い価格で仕入れたりが、企業経営の戦略として当たり前のことだと考えられてきました。いわばESGの「E」と「S」は、置き去りにされてきた恰好です。

その一方、「G」については、これまでの経済・社会においても、それぞれの企業の中で取り組むべきとされてきました。特に、集団食中毒や消費期限切れ食品の販売、製品のリコール隠し、整備点検記録の改ざん、賄賂の授受など、企業の不祥事が立て続けに明らかになった2000年代初頭以降、クリーンなイメージは、企業にとって欠かせない価値の1つとなっています。

■ 問われている「G」の在り方

「経営マネジメント」といった言葉がクローズアップされたのも、こうした時代でした。しかしこれまでの経営マネジメント、つまりガバナンスは、法令遵守はもちろんのこと、賄賂の授受を容認しない、取締役の違反がない、労働のリスクがないなど、倫理的であるかという切り口で企業の健全性をはかるにとどまっていた。目的が財務の健全性にあったからです。

つまり、「E」と「S」が二の次にされてきたことも、「G」に対しては一定の取り組みが成されクリーンなイメージが重要視されてきたことも、指標となっていたのは企業の財務だったわけです。信頼性が重要とされてはいたものの、地球環境や社会に及ぼす影響については、企業価値を判断する基準

と考えられてはいなかったのです。

その結果、地球環境が多大なダメージを受け、また国と国、人と人の格差拡大などの社会課題が深刻化してしまったことは、ESGの「E」と「S」が企業価値の判断基準として注目されるようになった大きな理由です。それに加えて、現在は顧客の消費意識や、従業員の労働意識も変化してきています。これまでのような、労働人権を軽視しても財務を中心にした価値観による企業の在り方が、先進国の国内にさえ、経済格差や不平等の問題を生み出してしまったからです。そうした状況を受けて、企業のガバナンスの在り方が今、根本的に問われています。

● これからの企業の在り方を考える

● 消費者調査：SDGsや地球温暖化問題に関わる消費者の購買行動

半数以上が「購入したい」と回答

■ 積極的に購入したいと思う
■ 購入したいと思う
■ どちらともいえない
■ 購入したいと思わない

出典：株式会社メンバーズCSVサーベイ 2021年春

MEMO
これまでの企業統治は、「コンプライアンス」を法令遵守と捉え、倫理規範課題としてきましたが、近年は社会課題などもコンプライアンスの概念に含まれるようになっていきます。

Chapter 1
なぜ「ESG」なのか？

丁寧な解説と豊富な図説で知識ゼロでもしっかり理解できる

■「購買物流」部門のESGアクションチェック

- 1 持続可能な開発（人権、環境、ジェンダー、農法など）に関する知識を深める機会がある
- 2 職場体験の受け入れ態勢がある
- 3 中小企業や零細企業を排除しない取引をしている
- 4 完全雇用や生産効率性に配慮した雇用の創出
- 5 児童労働や強制労働がない
- 6 安心・安全な労働環境への取り組み
- 7 外国人労働者（移住労働者）の人権相談者数が少ない
- 8 若年雇用者数が多い
- 9 地域雇用率が高い
- 10 開発がもたらす住民やコミュニティへの影響の配慮
- 11 水源環境の情報提供
- 12 廃棄物削減への取り組み
- 13 第三者によるサステナブル認証制度の導入（FSC、MSC等）
- 14 生物多様性保全に配慮した調達
- 15 遺伝子資源に関するアクセスと公平な利益配分の配慮
- 16 海外との取引に関する法制度・ルール・税務などを把握
- 17 適正な価格による取引
- 18 調達を通じた都市と地域の交流を活性化させる取り組み
- 19 紛争や違法取引に加担する原料を調達していない
- 20 取引における資金の透明性と情報開示

● ESG 4P Cycle ~ ESG 経営の原動力~



本書独自のチェックシートやフレームワークでESGに取り組める

● ESG 思考ワークシート

Profit	G	分類	チェックシート								
			財務影響度		内部統制		企業責任		情報開示		
			リスク	機会	外部監査	法令順守	会計責任	製造責任	説明責任	対話	
Planet	E	気候変動対策									
		エネルギー管理									
		水資源									
		汚染防止									
		生物多様性影響									
		循環									
People	S	人権									
		ダイバーシティ									
		健康経営									
		公平な労働慣行									
		人材の育成訓練									
		地域社会支援									
		研究開発									

© Mizuno Masahiro

事業が環境や社会にもたらす影響を企業ガバナンスの指標から評価できるESG思考ワークシート

■本書の構成

- Chapter1 なぜ今「ESG」なのか？
- Chapter2 ESGとこれからのビジネス
- Chapter3 ESGがつくりだす新たな企業価値と存在意義
- Chapter4 全社で取り組むESG
- Chapter5 ESGの取り組みを自己評価する
- Chapter6 事例に学ぶESG経営

■書誌情報



書名：ESGが生み出す選ばれるビジネス（できるビジネス）

著者：水野雅弘

発売日：2022年7月5日（火）

ページ数：208ページ

サイズ：A5正寸

定価：1,980円（本体1,800円＋税10%）

電子版価格：1,980円（本体1,800円＋税10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-01431-7

◇Amazonの書籍情報ページ：<https://www.amazon.co.jp/dp/4295014311/>

◇インプレスの書籍情報ページ：<https://book.impress.co.jp/books/1121101068>

◇書影ダウンロード：<https://dekiru.net/press/501431.jpg>

■著者プロフィール

水野雅弘（みずのまさひろ）

株式会社TREE代表取締役社長。顧客マーケティングの先駆者として、米国からコールセンターやCRMを日本市場に導入。銀行や保険などのダイレクトビジネスのコンサルティング実績を積んだ後、活動テーマをサステナビリティにシフト。グローバル環境映像メディア「GREEN TV JAPAN」のプロデューサーを経て2016年、SDGs達成に向けた教育メディア「SDGs.TV」を開設。ビジネスから教育まで幅広い分野に携わり、サステナブルな社会の変革を進めている。著書に『SDGsが生み出す未来のビジネス』（インプレス）など。

株式会社TREE <https://tree.vc/>

SDGs.TV <https://sdgs.tv/>

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計7,500万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watchシリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」、「SmartGrid ニュースレター」、「Web担当者Forum」等の企業向けIT関連メディアブランドを総合的に展開、運営する事業会社です。IT関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたはWebサイトからお問い合わせください。